

## Mシート【国語】

学部	中学部	学年・グループ	Kグループ	領域・教科等名	国語科	
期間	令和2年10月22日～11月10日			授業数	6	記入者 多田
単元名	表現を工夫して読もう					
学習指導要領段階	国語科 C読むこと 考えの形成 中学部 1段階・2段階					
学習概要	本グループでは、これまでの「読むこと」の学習において、主に「正確に」「はっきりとした声で」表出する音読に取り組んできた。本単元において、詩の内容を理解し想像しながら、作品の特性を自らの音声を工夫して表現する「朗読」へと変えていく。読みの技能について理解を深めるとともに、「思考力、判断力、表現力等」を働かせて、一人一人の表現の違いがあることや、聞き手を意識して自分なりに表現を工夫し、言葉の響きやリズム感の良さに気付くことをねらいとする。					

単元の目標	
知識及び技能	文章の内容や意味を理解するとともに、読みの技能を高めることができる。
思考力、判断力、表現力等	文章から考えたことや思ったことを、表現性を高めて聞き手に伝えようとする。
学びに向かう力、人間性等	言葉の響きやリズムのよさに気付くとともに、よりよく朗読に取り組もうとする。

学習計画（教育的ニーズ、育成したい資質・能力等を踏まえて）		ねらいと評価計画		
期日	主な学習計画	知・技	思・判・表	主体的
10/22(木)	<p>めあて:読みの技法があることに気付こう。</p> <p>①朗読「忘れもの」を録音する。 ②詩「春のうた」を題材に読みの技法(正確・間・抑揚・緩急)を確認する。 ③ 表現の工夫次第で印象が変わることを知る。表現技法の色シールを貼る。</p>	◎		
10/23(金)	<p>めあて:読みの技法を探してみよう。</p> <p>①詩を録音する。 ②詩「水のころ」朗読を聞いてどの技法なのかを知る。 ③詩に込められた作者の意図を協議する。(水と心の対比) ④技法を意識して朗読する(録音)。表現技法の色シールを貼る。 ⑤最初の朗読との違いに気付く。</p>	○	○	
10/29(木)	<p>めあて:読みの技法(緩急)を使ってみよう。</p> <p>①前時の復習をする。 ②生徒が録音した「水のころ」の朗読を聞く。 ③どうしてそういう表現をしたのか理由を述べる。 ④詩「かく」と「はやく」を提示。緩急の特徴に気付く。 ⑤文章の内容を理解する。 ⑥ペアで読み合う。</p>	○	○	○
10/30(金)	<p>めあて:読みの技法(抑揚)を使ってみよう。</p> <p>①前時の復習をする。 ②生徒が録音した「かく」「はやく」の朗読を聞く・読み合う。 ③読みの技法の確認。 ④詩「おならうた」を提示。抑揚の特徴に気付く。 ⑤場面ごとのおならの音を自分なりに表現する。</p>	○	◎	○
11/6(金)	<p>めあて:表現を工夫しよう。</p> <p>①前時の復習をする。 ②「もういいの」の文章内容の理解。 ③連ごとに分けて「もういいの まあだだよ」を問う。</p>	○	◎	○
11/10(火)	<p>めあて:自分と友達の表現の違いに気付こう。</p> <p>①選んだ詩の朗読をする。 ②単元の振り返りをする。</p>		◎	◎

留意事項・共通事項・準備物等
<ul style="list-style-type: none"> <li>・読みの技能(正確な読み・抑揚・緩急・間の取り方)を表にする。</li> <li>・各技法に特化した詩を用意し、読みながら技法の良さに気付けるようにする。</li> <li>・ロイロノートにて録音し、提出。後半は、ペアを組み、互いにチェックし合うようにする。</li> <li>・言葉の意味調べでは、WEBを活用し、言葉の意味を画像として添付する。</li> <li>・朗読を録音し、互いの読みの表現の特徴に気付かせる。</li> <li>・振り返りシートを工夫する。</li> </ul>

題材:「水のころ」高田敏子  
 題材:「おならのうた」谷川俊太郎  
 題材:「はやく」藤富保男  
 題材:「もういいの」金子みすゞ

個別の目標（評価基準 ◎：十分に達成できた ○：概ね達成できた △：○に満たない）					
学年	生徒名	評価規準		評価	特記事項
3	Hくん	知	詩の言葉を理解し、間の取り方を工夫して読み上げることができる。	◎	カラーシールの手立てが有効であった。
		思	詩の特徴を捉えて、間や声の強弱を意識しようとする。	◎	
		主	友達の読みを聞いて、自分の振り返りに生かそうとする。	○	
3	Nさん	知	抑揚や緩急をつけて読むことができる。	○	友達の朗読を自分の表現に生かそうとしていた。
		思	作者の思いを想像しながら自分なりに表現を工夫しようとする。	◎	
		主	最初の自分の朗読と比較し、改善点や自分の良さに気付く。	◎	
2	Kくん	知	間の取り方や抑揚に気を付けて読むことができる。	◎	授業で学んだことを生かして朗読を工夫していた
		思	朗読の見本や友達の朗読を参考に、自分なりの表現を工夫する。	◎	
		主	自分の最初の朗読と比較して自分の学習の成果に気付く。	○	
2	Mさん	知	読み間違えに気付き、自分で修正してよりよい読み方を身に付ける。	○	文章の内容を理解し、自分なりの表現をしようとしていた。
		思	文章の内容を捉え、場面に合った表現を工夫しようとする。	◎	
		主	友達と自分の表現の違いを認め、よりよく学習に取り組もうとする。	○	
1	Tくん	知	抑揚や緩急をつけて読むことができる。	○	毎回丁寧に朗読を録音して提出していた。
		思	文章の内容を捉え、場面に合った表現を工夫しようとする。	○	
		主	言葉のリズム感到親しみ、進んで表現読みに取り組もうとする。	◎	
1	Tさん	知	読み間違えがなく、抑揚や緩急をつけて読むことができる。	○	文章の意味を捉えて朗読を工夫していた。
		思	作者の思いを想像しながら自分なりに表現を工夫しようとする。	◎	
		主	友達や自分の読み方の変化に気付き、よりよく取り組もうとする。	◎	

単元（題材）評価（○：十分である △：検討が必要）				
期日	時数	内容	教材	学習グループ
○	○	△	△	○

全体を振り返って（成果と次年度への課題）
<p>○ロイロノートを活用したことにより、効果的に授業を進めることができた。</p> <p>○録音したことで繰り返し聞くことができ、他者と自分の表現の違いへの気付きを促すことができた。</p> <p>○詩の内容や生徒の気付きなどを写真やイラストなどにより即時に提示したことで、文章理解を促すことができた。</p> <p>△単元のねらいを達成できるように詩の選定及び数の絞り込みの検討が必要だった。</p> <p>△生徒の思考力を働かせるため、指導者の発問等をより工夫する必要があった。</p>